

1 学校教育目標

本校の綱領「自己を知り、自己に培い、社会を知り、社会を愛せ」に基づいて、自ら目標を持って学ぶ力を養うとともに、知・徳・体の調和した、こころ豊かで自立した人間の育成を目指す。

2 重点目標

- ・生徒の学びを支える仕組みの確立を図りながら未来への道を切り拓く力を育む。
- ・文科省指定事業【地域魅力化型】の指定を受け、持続可能なふるさとづくりのための人づくりを推進する。生野銀山や竹田城跡など観光資源豊かな朝来市にある本校からグローバルな視点とともに地域の魅力を伝えられる発信力を持った人材や地域の課題解決に向けた提案ができる人材を育成する。
- ・異文化への寛容性と共に、課題意識を持ち、自らの意見をはっきりと述べるができるグローバル人材を育成する。
- ・生徒の進路目標実現に向けて、学校全体で組織的に取り組む体制を確立する。

4 学校関係者評価

- ①・マナー指導を引き続き丁寧に進めてほしい。・地元の人々は「生野高校生はしっかり挨拶してくれる」と言っておられます。挨拶の良き伝統を継続してほしい。・登校時に会う生徒は私が防犯パトロールの帽子、ジャンパーを着ているせいかもしれないが全員挨拶してくれる。PTAの挨拶運動も良い。
- ②しっかりと準備されて行われた「第1回但馬高校生フォーラム」では、大きな成果を得ることができた。継続実施に向けて努力していただきたい。・全体として自立を促す学校の雰囲気があると思う。・グローバル教育教育は良い刺激になっていると思う。日本遺産の活用によって他校や地域の取り組みに学ぶことは、目標を高く持つ効果がある。
- ③SNS等の社会進歩にも道徳的に対応できていると思う。・お互いの人権を尊重することは、自らを守り伸びていき、社会の発展に繋がることになることを理解するよう指導されたい。
- ④・スタディサプリの導入が家庭学習の増加には直接つながっていないように思われます。利用について更なる工夫を考えてほしい。・やはり家庭学習の量は少ないと思う。ただ進学実績や行動から判断すると量は少ないが問題があるとは言えない。・家庭学習の習慣をいかに身に付けさせるかが課題である。スタディサプリの活用は良い。
- ⑤・大学のオープンキャンパス、指定校推薦等の情報提供を更に進めてほしい。・進路指導に関する情報収集と提供のアンケートで教師の「とても思う」が少ないのが気になる。地方の小規模校から国公立大への道を太くしてほしい。
- ⑥・ベテラン教職員の相談またはアドバイスができる学校であってほしい。・ICT教育において、教師間において、習熟度の差は出来ないようにしてほしい。・グローバル教育研究会や先進校の視察など積極的に取り組まれた。また、ICT教育の導入も評価できる。
- ⑦・「観光グローバル」で「観光」という概念がきちんと捉えられているかやや疑問に思う。中学校からの進路決定に戸惑いが見られる。・本校の魅力をさらにPRしてほしい。PTAとしても広報活動に協力したい。・地域との連携を推進しているのは良い。地域に支えられる学校になってほしい
- ⑧・ネット環境の危険性やSNSの使い方について、啓発活動を続けてほしい。・いじめの早期発見に努められたい。災害時、身の安全をはかると同時に、高齢者や障がい者の避難の手助けが出来る存在に。

3 学校自己評価結果(5…よくできた 4…できた 3…どちらともいえない 2…あまりできなかった 1…できなかった)

分野	評価内容	R01平均	学校の取り組み状況・改善の方策
①基本的生活習慣の確立	・挨拶の励行、交通マナーの向上など社会性の育成や、基本的生活習慣の確立	4.2	・登校時の昇降口での挨拶の励行や授業開始、終了時の挨拶の徹底等に重点的に取り組んだ。 ・定期的に服装頭髪指導を行い、本校生としての正しい身なりを自覚させた。 ・年度当初に、集会時の集合や礼について、指導し学校生活の環境づくりに努めた。 ・PTAによる挨拶運動や、列車指導等、保護者の協力が得られた。
②自ら目標を持って学ぶ力の育成	・目的意識を持った学校生活や行事への取り組み	4.2	・第4回観光・グローバル教育発表会、第1回但馬地区高校生フォーラムに向けて、フィールドワーク等、生徒の主体的・対話的で深い学びを推進した。 ・英語検定・GTEC等、生徒に目標を持たせ、資格取得に向けた取組を進めた。 ・日本遺産フォーラム、マイプロジェクトアワード、豊高アカデミア等外部の発表会に積極的に出場した。 ・家庭科部がパウンドケーキを製作し、1月にふれ愛交流事業でお年寄りにプレゼントした。 ・部員数確保が難しい部活動への入部促進を図る方策を引き続き考えていかなければならない。
	・部活動の活性化	3.6	
③人づくりの基盤としての道徳性の育成	・人権HRを通じた人権意識の高揚	3.8	・各学年ごとにテーマを決めて人権HRを実施した。 ・SNSの利用において、相手を思いやる気持ちを育てるため、適切なスマホ利用の継続指導を行った。
④主体的に学ぶ態度や学習習慣の育成	・家庭学習習慣及び自ら学ぶ姿勢の確立	2.2	・週末課題、スタディサプリを利用した課題等、家庭学習習慣を身につけるために、小テストを実施するなど各教科で工夫したが、家庭学習時間の増加には繋がっていない。 ・学習への意義が見出せるように、相談活動等、動機付けを高める取組を進める必要がある。
⑤進路希望の実現	・進路実現のためのカリキュラム設定	3.5	・今年も一般入試より、AO入試、推薦入試を受験する生徒が増加する傾向であった。 ・国公立大学、私立大学、SGHを利用したAO入試等で今年も合格者が出た。 ・進路ガイダンス等、進路関連の行事を充実させ、情報提供を進めた。 ・探究に関する授業等で大学等を訪問し、自己の興味・関心を高め、進路目標を立てる一助とした。 ・国公立大学や4年制の大学を目指す生徒を多くするための計画的な指導をしていく必要がある。 ・模試の回数等、年間指導計画を見直す必要がある。
	・進路指導の充実及び家庭への適切な進路情報の提供	3.6	
	・キャリア教育の推進	3.6	
⑥教職員の資質の向上	・授業の工夫改善及びわかりやすい授業の確立	3.9	・ICT教育の指定を受け、数学科・英語科を中心に電子黒板やIpadを利用した取組を推進した。 ・Ipadの有効活用等、主体的、対話的で深い学びを推進する授業の研究に努めなければならない。 ・和田山特別支援学校教員(4月)、本校キャンパスカウンセラー(1月)による特別な支援を必要とする生徒の対応の研修会を行なった。 ・グローバル教育研究会(4月)、和気閑谷高校長の講演(12月)、テクノロジーに関する講演会(1月)、先進校視察の還元研修(1月)等を実施した。
⑦開かれた学校づくり	・家庭への連絡及び情報の積極的提供	4.2	・フィールドワークで地域に出て活動したり、発表会を行ったりするなど、地域との連携を推進した。 ・生野高校通信を近隣の中学校には、3年生の人数分印刷して配布し、広報に努めた。 ・学校HPのブログ更新を頻繁に行い情報を広く提供したが、HPのレイアウトの工夫が必要である。
	・地域との連携を図った行事の実施	3.3	
⑧安全安心な学校生活	・校内の環境整備の適切な実施	3.8	・いじめアンケートを年3回実施し、その結果を精査し、いじめの予防・早期発見に努めた。 ・生徒面談やキャンパスカウンセラーの活用により、生徒の心身の状況把握に努めた。 ・いじめ発見後は、いじめ対策チームで対策を検討し、迅速な対応に努めた。 ・4月当初に防災避難訓練を行い、また1.17追悼行事、3.11追悼行事を活用し、生徒の防災意識の高揚に努めた。 ・1月職員研修で震災・学校支援チームEARTH所属の教員を講師に「災害発生時を想定した訓練研修」を行った。
	・防災や生徒の安全への配慮	3.6	
	・生徒の心身の状況把握及びいじめ等の予防への対処	3.7	